

地元報告会資料

(平成24年3月24日)



報告内容

1 平成23年度多摩清掃工場の運営について

- ①経営方針
- ②主な活動
 - ・安全対策等
- ③ごみ搬入量の状況
 - ・構成市の搬入状況、推移
 - ・調布市の受入れ状況
 - ・小金井市の受入れ状況
- ④環境測定結果
- ⑤リサイクルセンター運営状況

2 平成24年度予算概要について

◇休憩(5分)

3 女川町の災害廃棄物受入れ処理について

4 その他

① 多摩清掃工場の経営方針

経営方針:環境にやさしい安全で開かれた多摩清掃工場

- 地域から排出されたごみの適正処理
- エネルギーの有効活用・環境負荷の低減
- 環境学習や情報の提供
- 放射性物質に関する情報提供

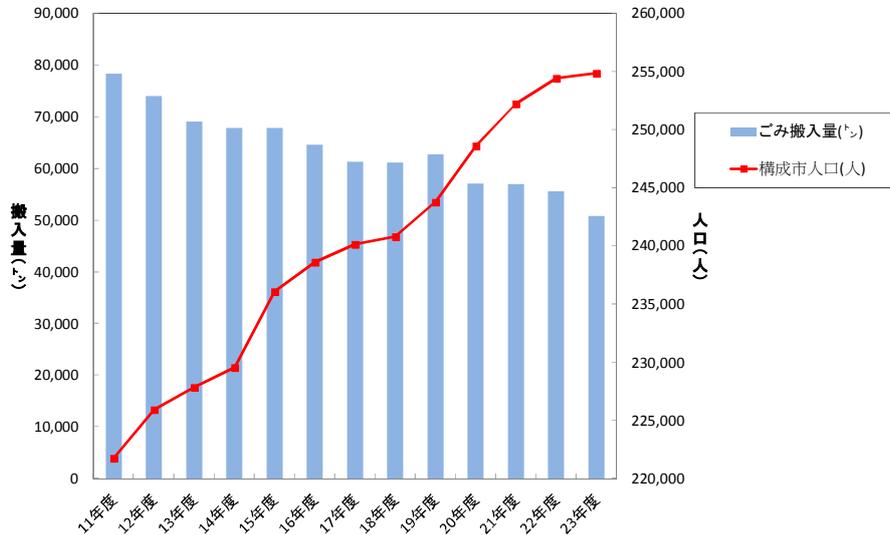
② 主な活動



- 安全対策
環境測定の充実
 - ISO14001取得・更新
- たまかんニュース
年2回 各116,700部発行
地域版 3,200世帯ポスティング
- 地域交流ふれあい事業の実施
23年10月23日たまかんフェスタ
(来場者 約1,900人)
- 施設見学会の実施 (24年2月末)
64団体 2,765人参加
- 唐木田クリーンアップ
毎月第3水曜日に工場周辺美化活動
- リサイクルセンターの運営
(24年2月末現在) 281日 24,952人来館

③ ごみ搬入量の推移

(構成市処理区域内の可燃ごみ＋不燃ごみ＋粗大ごみ)



③(別紙) 平成23年度のごみ搬入量の状況

注) 平成23年度実績は、平成24年2月末現在を表記しています。

(1) 平成23年度 多摩清掃工場へのごみ搬入量(t)

		可燃ごみ	不燃ごみ	粗大ごみ	合計
構成市	(処理区域内)	45,749	3,236	1,793	50,778
	(八王子拡大区域)	10,986			10,986
	(八王子市応援分)	2,698			2,698
	(町田市応援分)	351			351
応援分	(調布市)	21,255			21,255
	(小金井市)	315			315
合 計		81,354	3,236	1,793	86,383

構成市の処理区域内のごみ量の経年変化は次ページ参照。

(2) 応援ごみの受入れ

- ◇応援ごみ受入れの根拠 多摩地域ごみ処理広域支援体制実施協定
(ごみ処理施設のトラブル等による突発的な停止や改修工事等の事態に備え、相互支援の理念に基づき、39市町村・団体により平成6年10月締結)

① 調布市からの受入れ

- ◇受入れの理由 調布市のごみを処理する「ふじみ衛生組合」の新ごみ処理施設の建設工事のため
- ◇前提条件 ごみ減量化の促進
- ◇受入期間 平成19年4月2日から平成25年3月31日まで
- ◇搬入量 家庭系可燃ごみ 26,000^t/年(上限)
- ◇搬入車両 調布市内で収集車両から運搬車両に積替える。尾根幹線を通行
- ◇搬入日 週4日(月・火・木・金)
- ◇23年度実績 21,255^t 平成24年2月末現在
- ◇24年度(実質)予定 23,000^t
- ◇その他 安全確保の徹底

② 小金井市からの受入れ

- ◇受入れの理由 小金井市の可燃ごみに係る逼迫した状況を鑑み、人道的かつ緊急的な支援を暫定的に行うため
- ◇受入期間 平成23年12月 ~ 平成24年3月の間
- ◇搬入量 家庭系可燃ごみ 期間中の総量で500t以内
- ◇搬入車両 3t車両。尾根幹線を通行。
- ◇搬入実績 平成23年12月12日(月) ~ 平成24年1月20日現在(28日間)
期間中の総量で 314.8t(搬入日の平均量 11.2t/日)

(3) 焼却炉稼働率

	22年度実績	23年度実績	24年度予測
焼却炉稼働率(%)	57	58	57
1炉運転日数(日)	297	270	237
2炉運転日数(日)	48	81	93
全炉停止日数(日)	20	15	35

* 146,000t = 日量200t炉 × 2炉 × 365日

* 稼働率(%) = 年間焼却量 ÷ 146,000t × 100

* 焼却炉は定期的な点検、検査、修繕などを行うため、稼働率の最大はおおむね75%(焼却量109,500^t)程度と考えられる。

④ 環境測定結果

(1) 環境測定情報:排出ガス調査①

年 度		平成23年度					
測定年月日		H23.5.13	H23.7.21	H23.9.21	H23.11.11	H24.1.16	3月予定
運転炉		2号炉	3号炉	2号炉	3号炉	2号炉	2号炉
ばいじん	濃度 (g/m ³ N)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	分析中
	規制基準値=0.08g/m ³ N 自主規制運用値=0.02g/m ³ N						
硫酸酸化物	濃度 (ppm)	7	8	8	9	5	分析中
	自主規制運用値=20ppm						
窒素酸化物	濃度 (ppm)	39	40	35	42	32	分析中
	規制基準値=250ppm 自主規制運用値=56ppm						
塩化水素	濃度 (ppm)	15	7	20	10	8	分析中
	規制基準値=430ppm 自主規制運用値=25ppm						

④ 環境測定結果

(2) 排出ガス調査②

測定日				H23.4.15	H23.7.22	2号炉 H23.8.23 3号炉 H23.8.24	H23.10.21	2号炉 H24.1.17 3号炉 H24.1.18
測定項目	測定炉	単位	排出基準					
ダイオキシン類	2号炉 3号炉	ng-TEQ/m ³ N	自主規制運用値 0.01	0.0020 休炉中	休炉中 0.00096	0.0082 0.0013	0.0057 休炉中	0.00023 0.0045

(3) 大気中のダイオキシン類調査

単位: pg-TEQ/m³

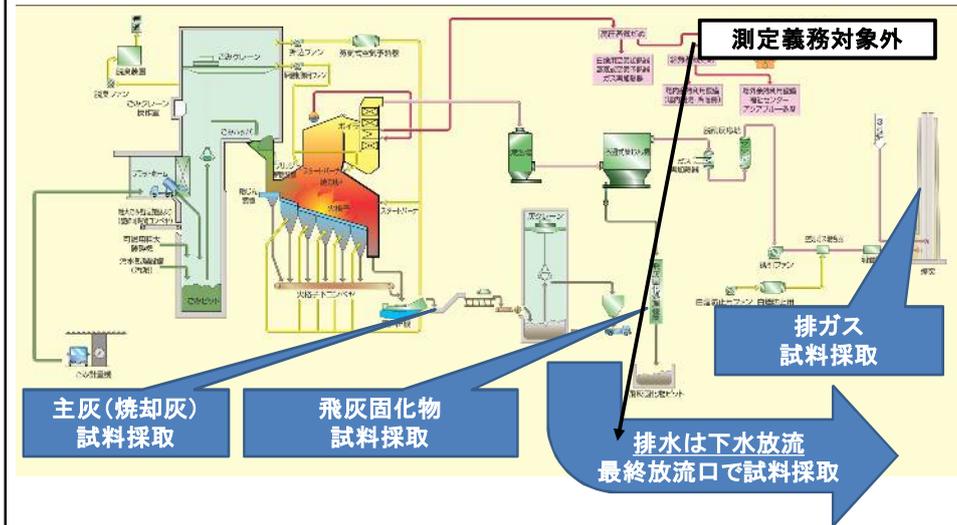
平成23年度	調査名等	調査地点				環境基準
		からきだの道	中坂公園	小山田緑地	別所公園	
稼動時	夏季調査(1炉運転)	0.0082	0.0082	0.0091	0.011	0.6
	夏季調査(2炉運転)	0.014	0.015	0.012	0.017	
	冬季調査(2炉運転)	0.022	0.022	0.025	0.028	
停止時	冬季調査(2炉停止)	分析中	分析中	分析中	分析中	

夏季調査(1炉運転): 平成23年7月21日~28日
冬季調査(2炉運転): 平成24年1月11日~18日

夏季調査(2炉運転): 平成23年8月18日~25日
停止時調査: 平成24年1月23日~30日(分析中)

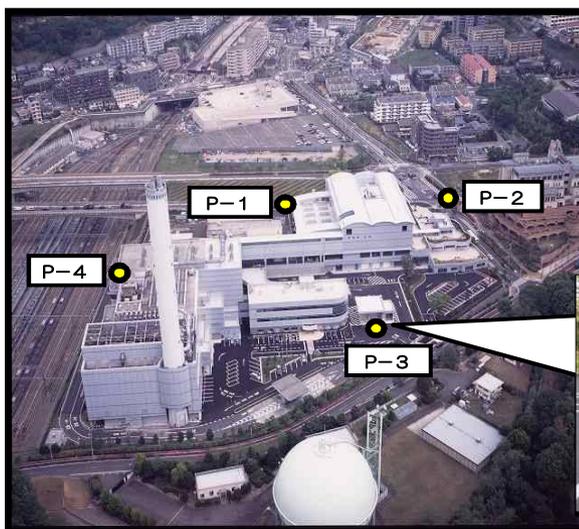
④ 環境測定結果

(4) 放射能濃度等測定地点



④ 環境測定結果

(4) 放射能濃度等測定地点



地上から
5cm・50cm・100cmの地点
30秒間隔で5回

測定結果は、100cmの5回の
測定値の平均

測定の様子



④ 環境測定結果

(5) 放射能濃度 (排ガス・排水)

試料名	回数	試料採取日	放射性ヨウ素			放射性セシウム		単位	
			I-131	Cs-134	Cs-137	合計			
排ガス	1回目	H23.8.2	不検出 (0.2~0.6)	不検出 (0.2~0.7)	不検出 (0.2~0.6)	—		Bq/m ³ _N	
	2回目	H24.2.17	不検出 (0.1~0.7)	不検出 (0.1~0.6)	不検出 (0.1~0.8)	—			
	3回目 2号炉	H24.3.16	不検出 (0.1~0.7)	不検出 (0.1~0.5)	不検出 (0.1~0.7)	—			
	3回目 3号炉	H24.3.16	不検出 (0.1~0.6)	不検出 (0.1~0.7)	不検出 (0.1~0.5)	—			
	1回目	H23.11.15	不検出 (7)	不検出 (10)	不検出 (7)	—			Bq/kg (L)
	2回目	H24.2.17	不検出 (11)	不検出 (9)	不検出 (12)	—			

排ガスの基準

セシウム134とセシウム137の両方が検出された場合には、各放射性物質の濃度限度に対する割合の和が1以下でなければならない。

$$[(\text{セシウム134の濃度} \div 20) + (\text{セシウム137の濃度} \div 30)] \leq 1$$

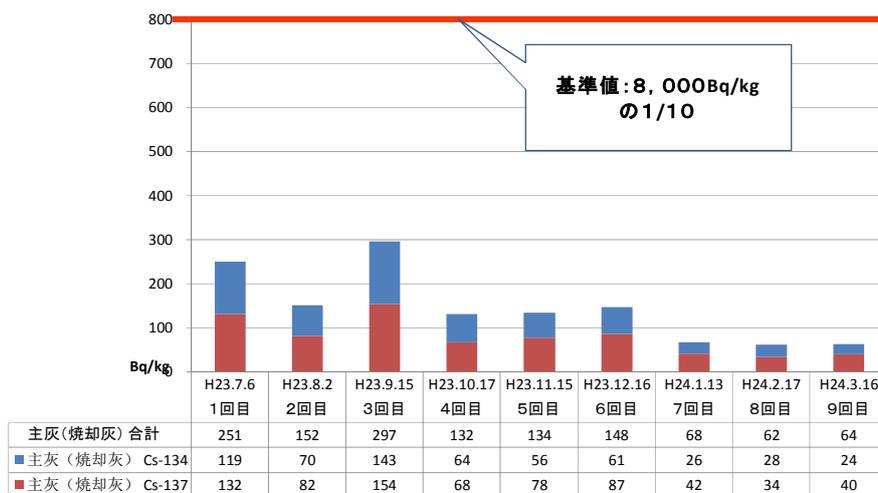
排水の基準

セシウム134とセシウム137の両方が検出された場合には、各放射性物質の濃度限度に対する割合の和が1以下でなければならない。

$$[(\text{セシウム134の濃度} \div 60) + (\text{セシウム137の濃度} \div 90)] \leq 1$$

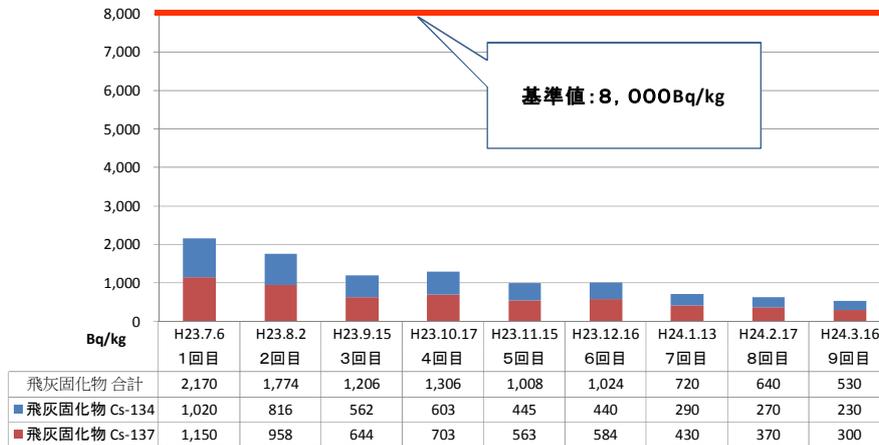
④ 環境測定結果

(6) 放射能濃度 主灰 (焼却灰)



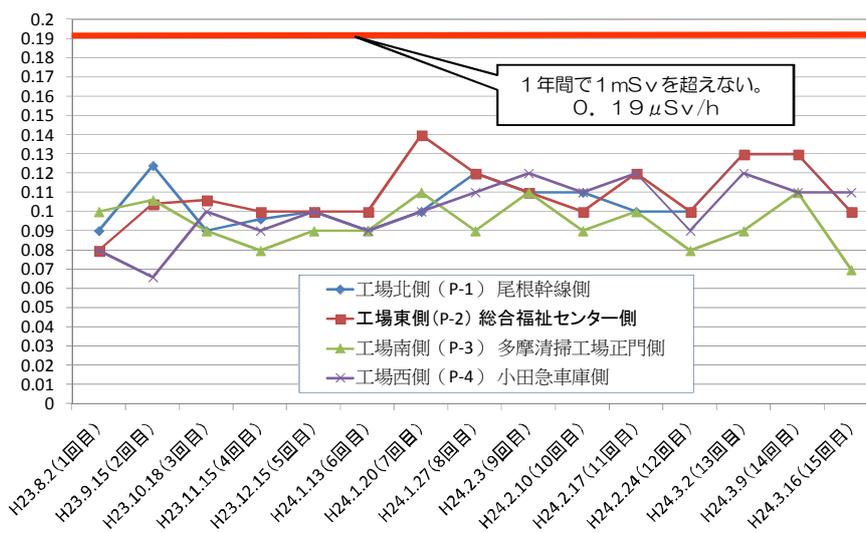
④ 環境測定結果

(7) 放射能濃度 飛灰固化物



④ 環境測定結果

(8) 敷地境界における空間放射線量率



⑤ リサイクルセンター運営状況

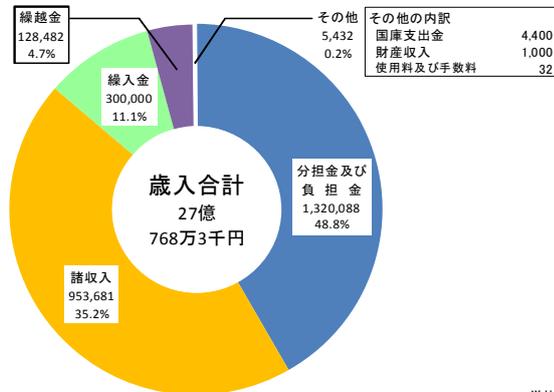
※平成24年2月末現在

- >開館日数・来館者数
281日 24,952人（内講座等884人・一般来館者等23,463人）
- >多目的室利用実績
253回（主催講座、イベント231回・関連団体17回・その他5回）
- >リサイクル品販売実績
 - 家具・木材等 4,366個
 - 自転車・部品 196点（45台・151点）
- >不用食器のリサイクル
持込者 612人 回収量4,078kg（3,383kg搬出・695kgリユース）
- >唐木田クリーンアップ作戦
平成23年12月27日実施 38人参加

平成24年度

予算概要について

歳入



款	平成24年度		平成23年度		比較	
	予算額	構成比	予算額	構成比	増減額	増減率
1 分担金及び負担金	1,320,088	48.8%	1,211,817	43.4%	108,271	8.9%
2 使用料及び手数料	32	0.0%	32	0.0%	0	0.0%
3 国庫支出金	4,400	0.2%	0	0.0%	4,400	皆増
4 財産収入	1,000	0.0%	1,231	0.0%	△ 231	△ 18.8%
5 繰入金	300,000	11.1%	1	0.0%	299,999	著増
6 繰越金	128,482	4.7%	158,386	5.7%	△ 29,904	△ 18.9%
7 諸収入	953,681	35.2%	1,420,944	50.9%	△ 467,263	△ 32.9%
計	2,707,683	100.0%	2,792,411	100.0%	△ 84,728	△ 3.0%

歳入予算の主なもの — 増減の大きなもの —

○分担金及び負担金

13億2,008万8千円で、1億827万1千円（8.9%）の増。

【構成市別負担金内訳】

- ・八王子市 4億6,489万 円（35.2%）
- ・町田市 5,024万5千円（3.8%）
- ・多摩市 8億495万3千円（61.0%）

○国庫支出金

循環型社会形成推進交付金（長寿命化計画策定事業に充当） 440万円

○繰入金

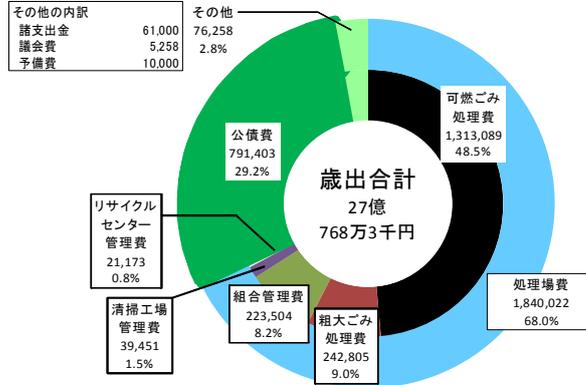
設整備基金繰入金（分散型計算機制御システム更新事業に充当） 3億円

○諸収入

9億5,368万1千円で、4億6,726万3千円（32.9%）の減。

- ・八王子市拡大区域ごみ処理費 2億2,278万7千円（547万6千円増）
- ・調布市可燃ごみ処理費 6億112万1千円（4億8,787万1千円減）
- ・売電収入 1億2,000万 円（2,000万円増）

歳出



単位:千円

款	平成24年度		平成23年度		比較	
	予算額	構成比	予算額	構成比	増減額	増減率
1 議会費	5,258	0.2%	4,670	0.2%	588	12.6%
2 処理場費	1,840,022	68.0%	1,586,173	56.8%	253,849	16.0%
3 公債費	791,403	29.2%	1,140,337	40.8%	△ 348,934	△ 30.6%
4 予備費	10,000	0.4%	10,000	0.4%	0	0.0%
5 諸支出金	61,000	2.2%	51,231	1.8%	9,769	19.1%
計	2,707,683	100.0%	2,792,411	100.0%	△ 84,728	△ 3.0%

歳出予算の主なもの — 増減の大きなもの —

○処理場費

18億4,002万2千円で、2億5,384万9千円（16.0%）の増。

・委託料 総額 6億5,433万円（7,877万1千円増）

長寿命化計画作成業務委託料（新規）

環境調査委託料（放射能等測定）

脱臭用活性炭入替委託料（可燃、不燃・粗大）

二酸化炭素消火設備容器交換委託料（新規）

・工事請負費 総額 7億8,603万円（1億8,236万2千円増）

機器補修工事（可燃、不燃・粗大）

建築設備更新工事（可燃）

分散型計算機制御システム更新工事

（平成23～24年度債務負担行為事業；総事業費3億9,304万円）

○公債費

7億9,140万3千円で、3億4,893万4千円（30.6%）の減。

女川町災害廃棄物の 清掃工場における受入れ



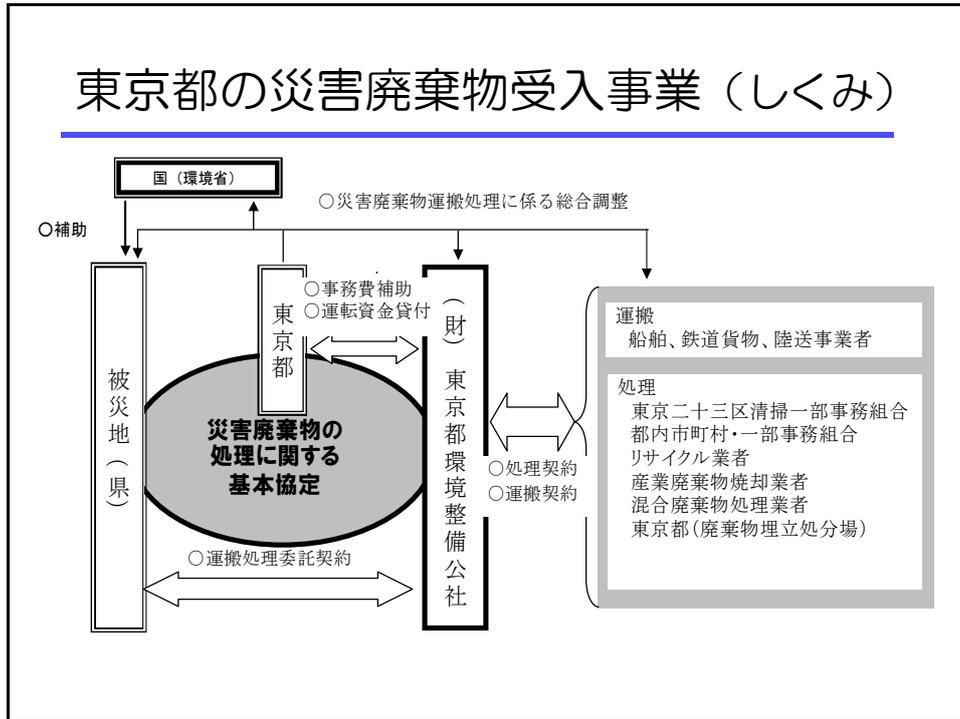
多摩ニュータウン環境組合

女川町災害廃棄物の受入れ



東京都環境局

東京都の災害廃棄物受入事業（しくみ）



試験焼却放射能測定結果①

東京都による測定＜大田清掃工場搬出分＞

選別エリア		ストックヤード	コンテナ
宮城県女川町			
空間線量率（ $\mu\text{Sv/h}$ ） （平成23年12月3日～12日分）		遮蔽線量率（ $\mu\text{Sv/h}$ ） ストックヤード	空間線量率（ $\mu\text{Sv/h}$ ） コンテナ側面
バックグラウンドエリア B	0.10～0.11	0.000～0.003	0.09～0.15
選別エリア A	0.09～0.11	搬出基準 $A \leq 0.01 \mu\text{Sv/h}$	平均値：0.10
搬出基準 $A \leq 3 \times B$			

ストックヤード（平成23年12月9日採取）			
組成	組成種別放射能濃度（Bq/kg）	組成比（%）	災害廃棄物放射能濃度（Bq/kg）
木くず	ND（<40）	80	71
廃プラスチック	60	14	
その他可燃物	紙くず	6	
	繊維くず		
その他	ND（<40）		

注：ND（<40）は、40Bq/kgとして計算。その他可燃物は、520Bq/kg（繊維）として計算。

試験焼却放射能測定結果②

＜東京二十三区清掃一部事務組合による測定＞

大田清掃工場

平成23年12月13,14日採取

敷地境界空間線量率 ($\mu\text{Sv}/\text{h}$)		放射能濃度 (Bq/kg又はBq/m ³)		【比較】大田清掃工場 (23年6月～12月)
災害廃棄物搬入前 (平成23年12月10日)	0.06～0.08	排ガス	ND (<1.02, <0.97)	ND
	平均値: 0.08			
試験焼却中 (平成23年12月13日)	0.07～0.09	主灰	99	81～254
	平均値: 0.08	飛灰	2,440	2,135～6,530
		飛灰処理汚泥	1,537	1,736～3,660

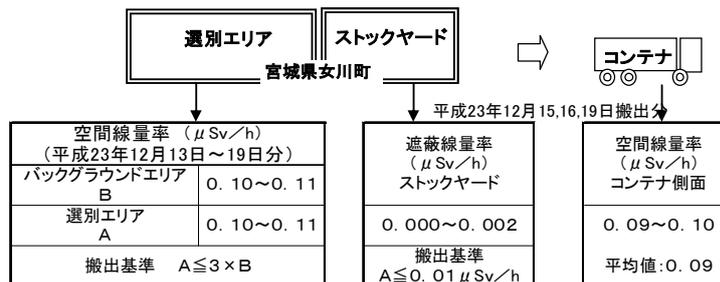
受入基準は焼却灰が8,000Bq/kg以下

災害廃棄物搬入日	平成23年12月10日、13日
災害廃棄物搬入量	58.91t
混合ごみ焼却量※	313.13t(混合比率18.8%)
試験焼却期間	平成23年12月13日～14日

※都内廃棄物と併せて焼却した量

試験焼却放射能測定結果③

東京都による測定＜品川清掃工場搬出分＞



ストックヤード (平成23年12月14日採取)			
組成	組成種別放射能濃度 (Bq/kg)	組成比 (%)	災害廃棄物放射能濃度 (Bq/kg)
木くず	ND (<40)	80	57
廃プラスチック	68	14	
その他可燃物	紙くず ND (<40)	6	
	繊維くず 250		
	その他 ND (<40)		

注: ND (<40)は、40Bq/kgとして計算。その他可燃物は、250Bq/kg(繊維)として計算。

試験焼却放射能測定結果④

＜東京二十三区清掃一部事務組合による測定＞

品川清掃工場

平成23年12月20,21日採取

敷地境界空間線量率 ($\mu\text{Sv/h}$)		放射能濃度 (Bq/kg又はBq/m ³)	【比較】品川清掃工場 (23年6月～12月)
災害廃棄物搬入前 (平成23年12月17日)	0.08～0.10	排ガス ND (<0.81、<0.81)	ND
	平均値:0.09		
試験焼却中 (平成23年12月20日)	0.08～0.09	主灰 124	81～273
	平均値:0.09	飛灰 1,043	618～2,094
		飛灰処理汚泥 655	426～1,275

受入基準は焼却灰が8,000Bq/kg以下

災害廃棄物搬入日	平成23年12月17日、20日
災害廃棄物搬入量	81.40t
混合ごみ焼却量※	406.92t(混合比率20.0%)
試験焼却期間	平成23年12月20日～21日

※都内廃棄物と併せて焼却した量

測定結果について

東京都環境局では、搬出時の放射能測定等を継続して実施し、公表していきます。

女川町の災害廃棄物受入れ処理について

平成23年6月都議会で東京都が受入を表明

平成23年11月24日

東京都市長会・宮城県女川町・東京都・宮城県

女川町の災害廃棄物について円滑に処理ができるように相互に協力する協定を締結

平成24年1月30日

東京都市町村清掃協議会・三多摩清掃施設協議会合同会議の中で、発電施設を持つ7工場で先行的に受入れていくことを決定

平成24年2月14日

多摩NT環境組合正副管理者会議の中で、多摩清掃工場において女川町の災害廃棄物を受入れることを正式に決定

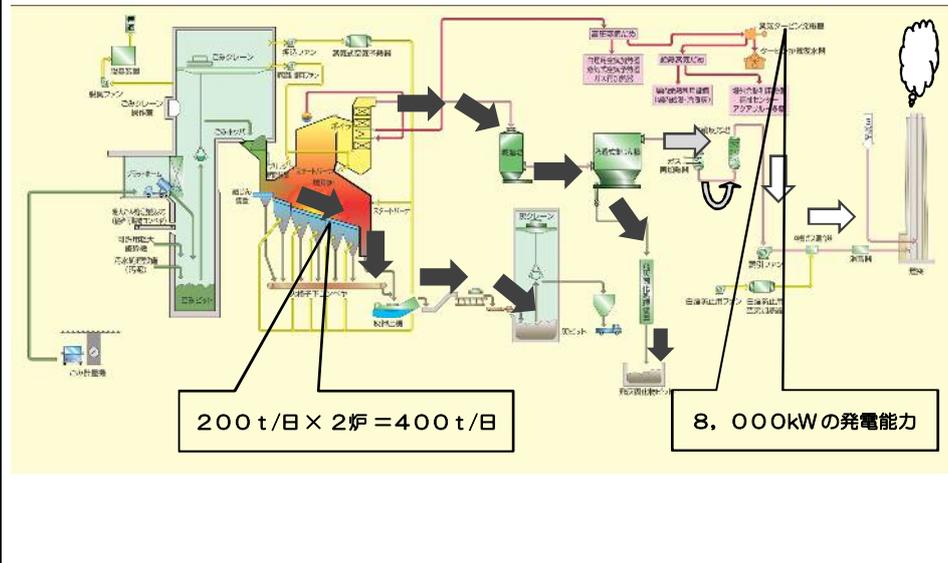
多摩ニュータウン環境組合において 災害廃棄物を受入れるにあたっての事前確認

現地の焼却試験結果の確認
東京都による評価

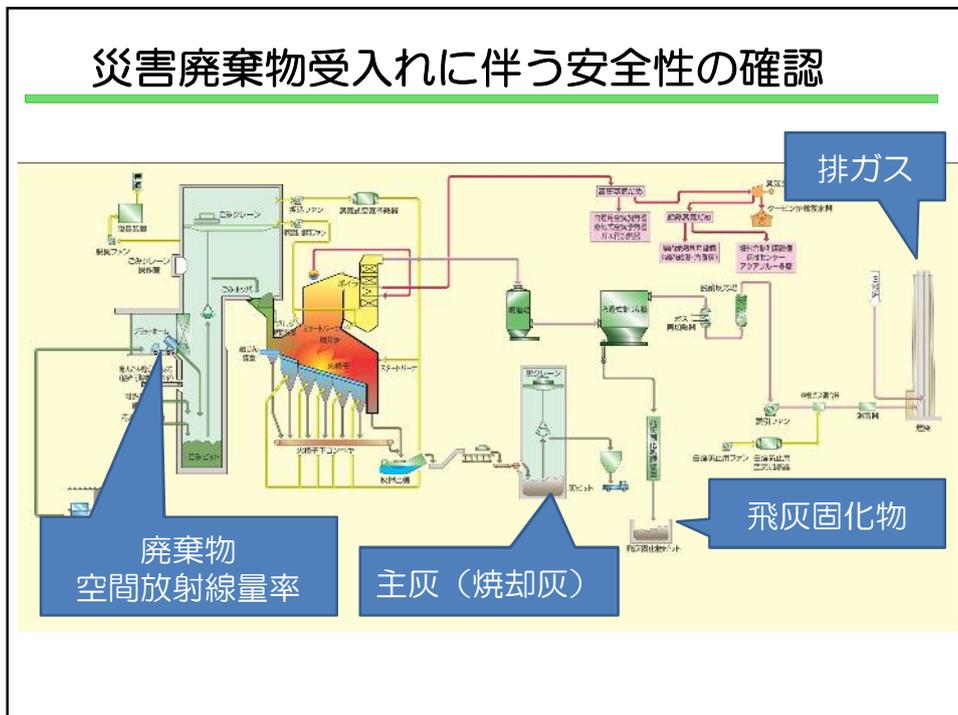
東京二十三区清掃一部事務組合
による試験焼却による評価

今後の災害廃棄物の受入れ

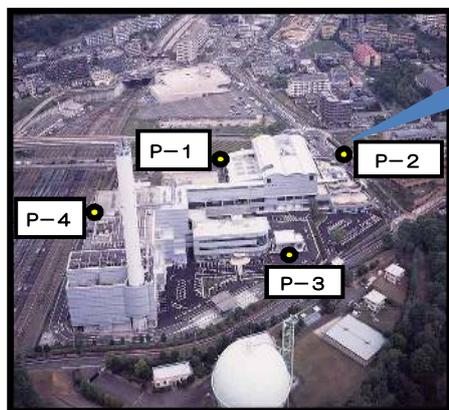
多摩清掃工場の施設概要（灰の流れ・排ガスの流れ）



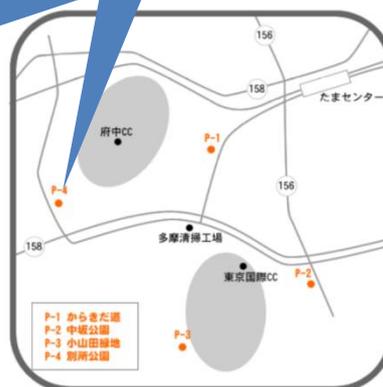
災害廃棄物受入れに伴う安全性の確認



災害廃棄物受入れに伴う安全性の確認



敷地境界と周辺大気の
空間放射線量率



災害廃棄物受入れに伴う 安全性の確認のまとめ

排ガス測定	1回/月・稼働炉	放射能濃度	Bq/m ³
主灰（焼却灰）	1回/月		Bq/kg
飛灰固化物	1回/月		
廃棄物	4回/年		
プラットフォーム	1回/週	空間放射線量率	μSv/h
敷地境界	1回/週		
周辺大気	1回/月		

災害廃棄物の受入れ・放射能濃度等の公表

期間・受入量・計画（月間・週間）

多摩ニュータウン環境組合ホームページで公表していきます。

放射能濃度等の測定

継続して測定を実施し、多摩ニュータウン環境組合ホームページで公表していきます。

〔関連情報URL〕

東京都環境局

<http://www.kankyo.metro.tokyo.jp/>

東京二十三区清掃一部事務組合

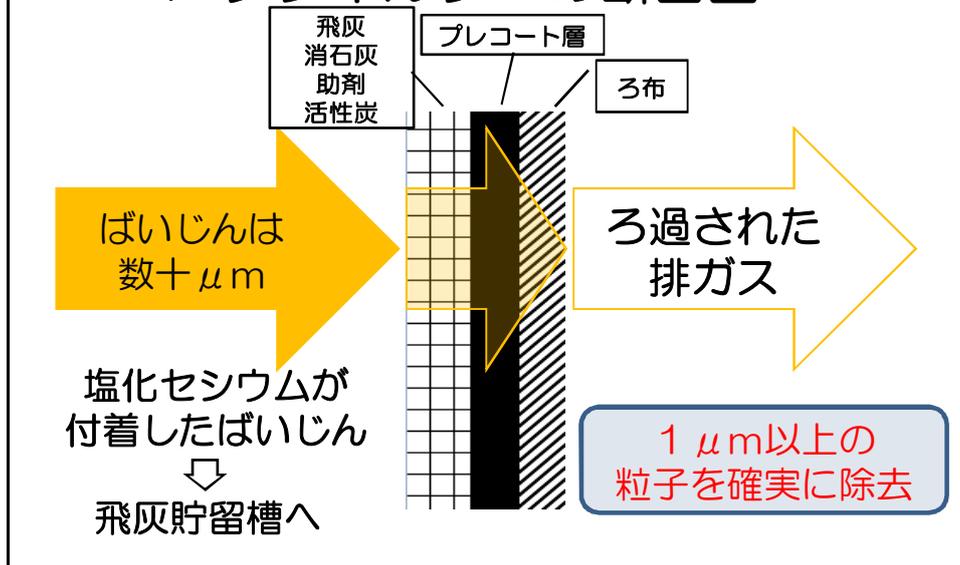
<http://www.union.tokyo23-seisou.lg.jp/topics/onagawa.html>

多摩ニュータウン環境組合

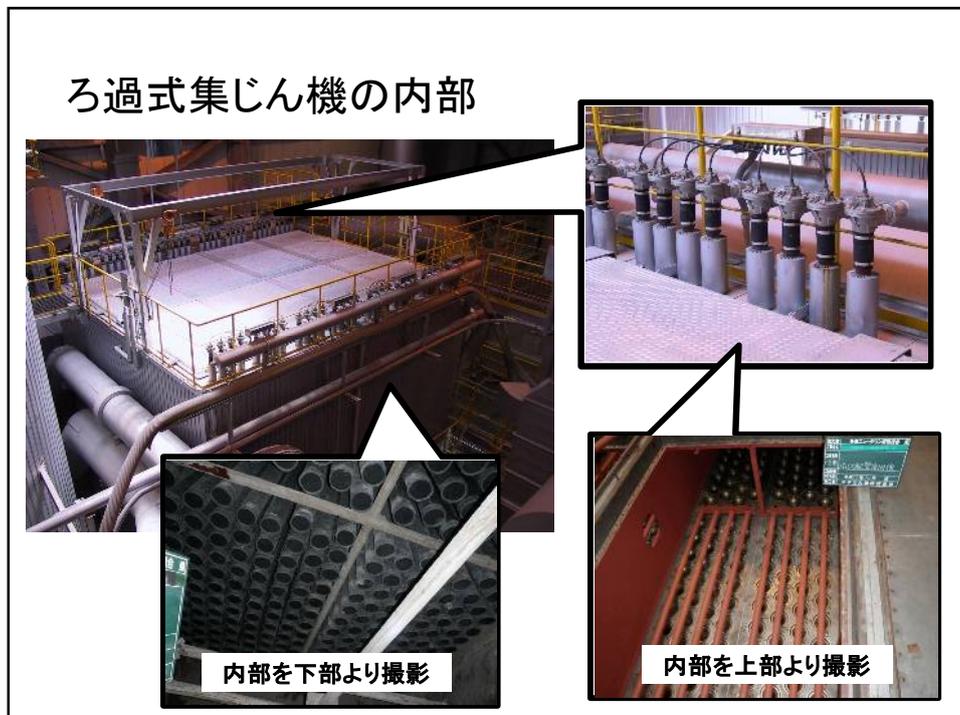
<http://www.tama-seisokojo.or.jp/>

清掃工場の放射性物質除去の仕組み(2)

バグフィルターの断面図



ろ過式集じん機の内部

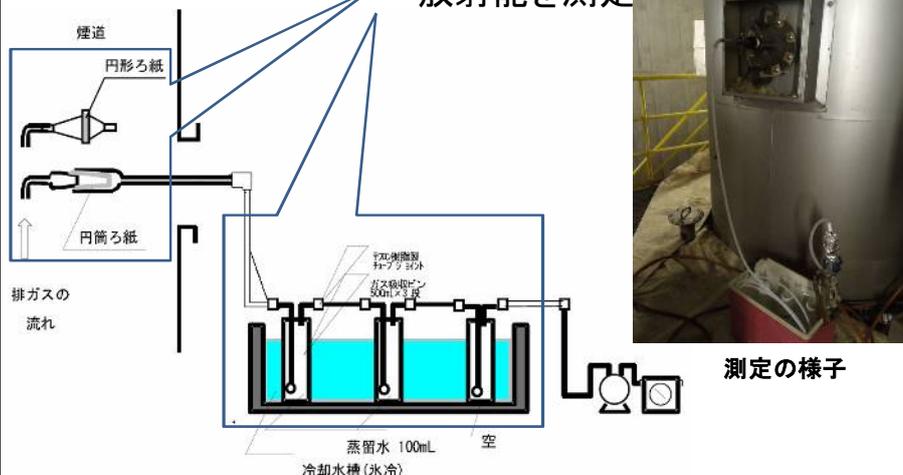


23年度 ごみ質(ごみ組成)

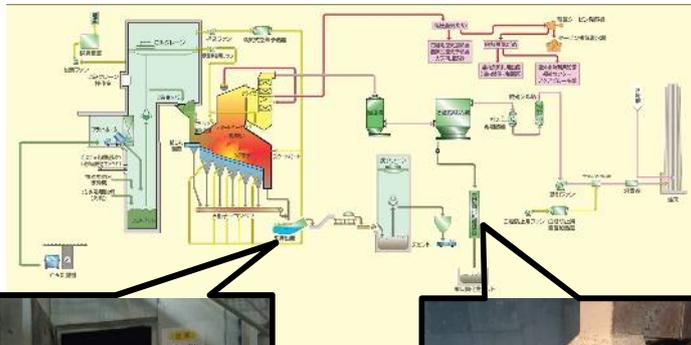
年 度			平成23年度				
測定年月日			H23.4.15	H23.7.22	H23.10.21	H24.1.18	平均
ごみの種類組成(乾ベース)	紙・布類	(%)	47.9	55.1	45.8	43.2	48.0
	合成樹脂類	(%)	27.0	21.7	23.6	28.7	25.3
	ゴム・皮革類	(%)	0.0	0.0	0.0	0.3	0.1
	木・竹・わら類	(%)	7.2	10.0	23.9	11.7	13.2
	ちゅう芥類	(%)	10.6	9.7	3.3	9.5	8.3
	不燃物類	(%)	3.8	0.6	1.2	5.6	2.8
	その他	(%)	3.5	2.9	2.2	1.0	2.4
ごみの種類組成(湿ベース)	紙・布類	(%)	41.9	50.0	39.9	46.6	44.6
	合成樹脂類	(%)	18.7	15.5	16.1	17.9	17.1
	ゴム・皮革類	(%)	0.0	0.0	0.0	0.2	0.1
	木・竹・わら類	(%)	8.4	13.9	33.1	9.2	16.2
	ちゅう芥類	(%)	25.8	17.7	8.0	21.9	18.4
	不燃物類	(%)	2.3	0.3	0.7	3.0	1.6
	その他	(%)	2.9	2.6	2.2	1.2	2.2

排ガスの試料採取方法

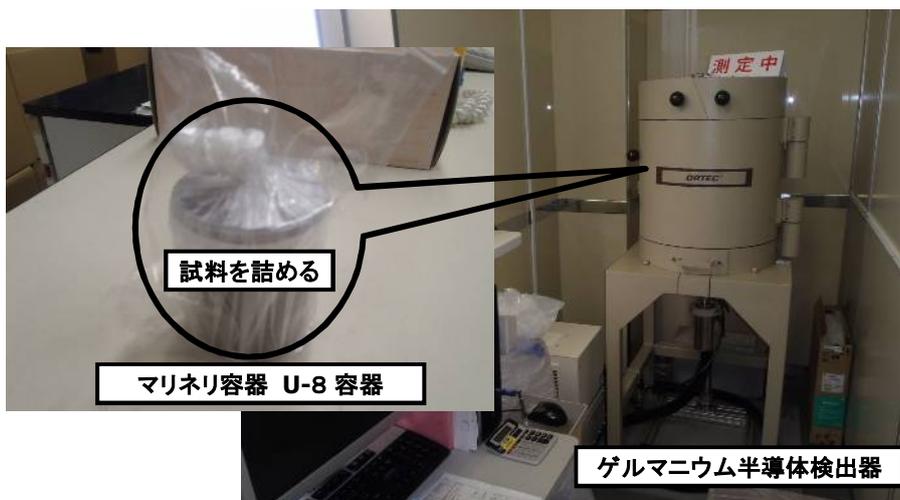
それぞれ別々に
放射能を測定



灰等の試料採取方法



放射能濃度測定方法



灰等の積み込時の飛散防止



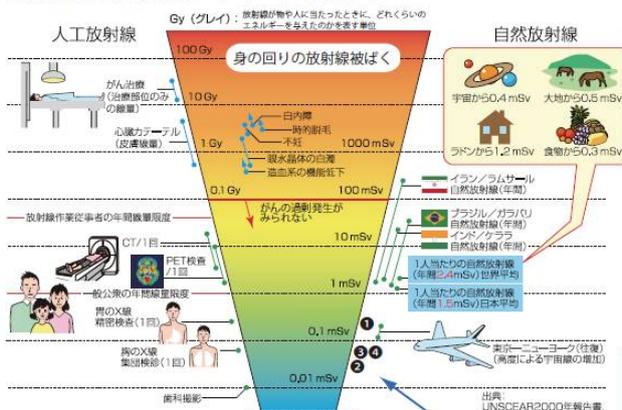
外に飛散しないように、積み込時はシャッターを閉めます。

シャッターが完全に閉まった状態から、積み込開始。



放射線量基準値

放射線被ばくの早見図



福島第1原子力発電所の事故による放射線量の目安

飲食物からの放射線 (ヨウ素 131 の場合)

- ①: 水
例えば、300^uBq/Lの水を1日2リットル、1ヶ月間飲み続けた
→ 0.4mSv
- ②: 牛乳
例えば、300^uBq/Lの水の牛乳を1日200cc、1ヶ月間飲み続けた
→ 0.04mSv
- ③: ほうれん草
例えば、2,000^uBq/kgのほうれん草を1日50グラム1ヶ月間食べ続けた
→ 0.07mSv

大気・大地からの放射線

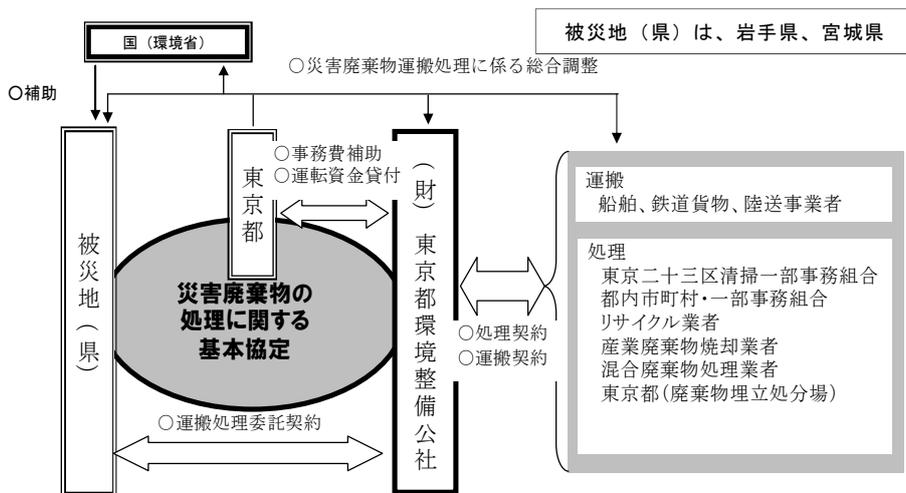
- ④: 空間線量率
例えば、空間線量率 0.1^uR/hの街の場所を1ヶ月間居続けた
→ 0.07mSv

【ご注意】
1) 数値は有効数字などを考慮した概数です。
2) 自然放射線は対象外示していません。背景がひたひたまで10倍を仮定します。
3) この図は、手元なく変更される場合があります。

女川町災害廃棄物の受入れ



東京都の災害廃棄物受入事業（しくみ）



女川町の災害廃棄物の焼却試験結果

■焼却灰等の放射能測定結果（石巻広域クリーンセンター）

災害廃棄物	放射能濃度	($^{134}\text{Cs} + ^{137}\text{Cs}$) 133 Bq/kg
-------	-------	---

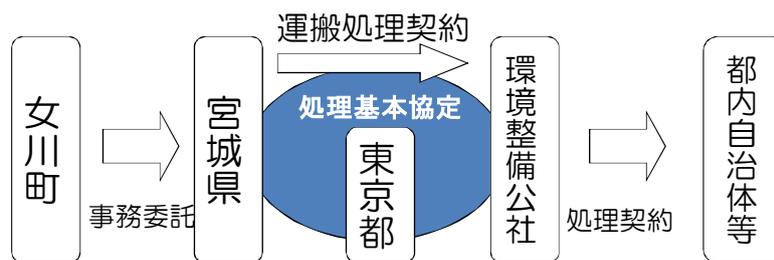
焼却灰 (飛灰)	放射能濃度		混合燃焼時 ※	通常時
			2,300 Bq/kg	2,200 Bq/kg
排ガス	放射能濃度 Bq/m ³ N	^{134}Cs	不検出	不検出
		^{137}Cs	不検出	不検出

※ 災害廃棄物を20%混合

■国の「広域処理推進ガイドライン」

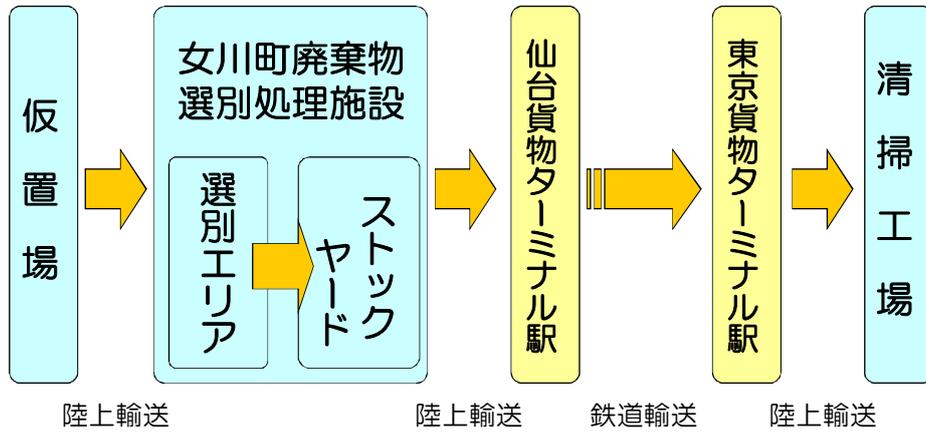
焼却灰	8,000 Bq/kg 以下 ($^{134}\text{Cs} + ^{137}\text{Cs}$)
排ガス	$^{134}\text{Cs} / 20 + ^{137}\text{Cs} / 30 < 1$

受け入れる災害廃棄物

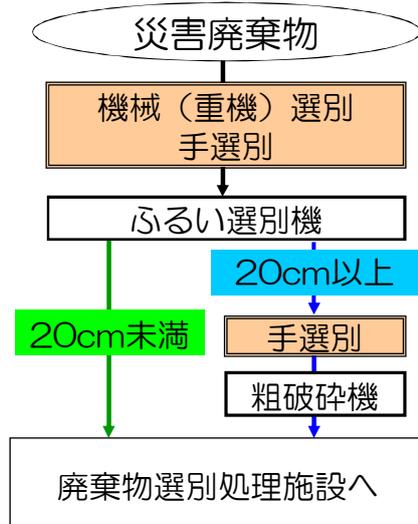


搬出場所	宮城県女川町石浜（女川町廃棄物選別処理施設）	
災害廃棄物の種類、量	可燃性廃棄物(木くず等)	約100,000トン
搬出期間（予定）	平成23年12月から平成25年3月まで	
運搬方法	鉄道貨物輸送	
処理方法	都内自治体で焼却処分	

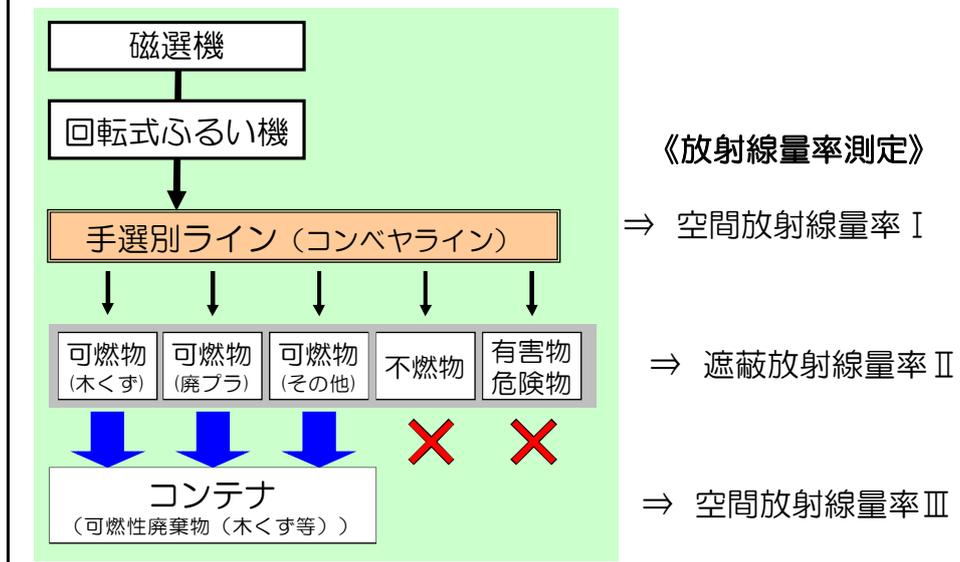
災害廃棄物の流れ（全体）



仮置場での作業内容



廃棄物選別処理施設での作業内容



手選別ラインの作業 (手選別エリア)



空間放射線量率測定 I ⇒

搬出する災害廃棄物（ストックヤード）



遮蔽放射線量率測定 Ⅱ ⇒

コンテナの積込み（ストックヤード）



空間放射線量率測定 Ⅲ ⇒

現地での環境対策

■女川町での放射線量率測定の概要

	測定場所	測定内容	測定頻度
I	選別エリア	空間放射線量率	1ラインにつき3地点、1時間ごと
II	ストックヤード	遮蔽放射線量率	コンテナ単位
III	ストックヤード (搬出時)	コンテナ積込後の 空間放射線量率	コンテナごと

■有害物（アスベスト等）、危険物の除去
仮置場と廃棄物選別処理施設の両方において手作業により実施

■監視

東京都環境整備公社職員（現地常駐）

東京二十三区清掃一部事務組合（清掃一組）における 試験焼却における放射能の測定結果

■放射線量率（平成23年12月3日～19日）



空間放射線量率（ $\mu\text{Sv/h}$ ）I		遮蔽放射線量率（ $\mu\text{Sv/h}$ ）II	空間放射線量率（ $\mu\text{Sv/h}$ ）III
手選別ライン	0.09 ～0.11	0.000 ～0.003	0.09 ～0.15

■放射能濃度（ストックヤード）

災害 廃棄物	サンプリング日	放射能濃度（ $^{134}\text{Cs} + ^{137}\text{Cs}$ ）
	平成23年12月9日	71 Bq/kg
	平成23年12月14日	57 Bq/kg

清掃一組の試験焼却の概要

■ 実施工場・期間

①大田清掃工場

搬入：平成23年12月10日・13日
 試験焼却： // 13日～14日

②品川清掃工場

搬入：平成23年12月17日・20日
 試験焼却： // 20日～21日

■ 実施方法

現地で安全性が確認された女川町の災害廃棄物を20%の混合比率で焼却

■ 搬入実績 大田清掃工場：約60トン
 品川清掃工場：約80トン

清掃一組の試験焼却結果（排ガス）

■ 〔大田清掃工場〕

		大田清掃工場			〔参考〕 清掃一組 全清掃工場
		法基準値	3号炉 (混合ごみ)	1号炉 (通常ごみ のみ)	
放射能 濃度 (Bq/m ³ N)	ヨウ素 131	—	不検出	不検出	不検出
	セシウム 134	20 ※1	不検出	不検出	不検出
	セシウム 137	30 ※1	不検出	不検出	不検出
アスベスト (本/L)		10 ※2	不検出	不検出	不検出
ダイオキシン類 (ng-TEQ/m ³ N)		1	0.00041	0	0～ 0.011

※1 セシウム134とセシウム137の両方が検出された場合には、各放射性物質の濃度限度に対する割合の和が1以下でなければならない。

〔（セシウム134の濃度÷20）＋（セシウム137の濃度÷30）≤1〕

※2 大田清掃工場には、この基準が適用にならないが、目安として示した。

清掃一組の試験焼却結果（排ガス）

■ 〔品川清掃工場〕

		品川清掃工場			〔参考〕 清掃一組 全清掃工場
		法基準値	2号炉 (混合ごみ)	1号炉 (通常ごみ のみ)	
放射能濃度 (Bq/m ³ /N)	ヨウ素 131	—	不検出	不検出	不検出
	セシウム 134	20 ※1	不検出	不検出	不検出
	セシウム 137	30 ※1	不検出	不検出	不検出
アスベスト (本/L)		10 ※2	不検出	不検出	不検出
ダイオキシン類 (ng-TEQ/m ³ /N)		0.1	0.0000068	0.000021	0 ~ 0.011

※1 セシウム134とセシウム137の両方が検出された場合には、各放射性物質の濃度限度に対する割合の和が1以下でなければならない。

〔(セシウム134の濃度÷20) + (セシウム137の濃度÷30) ≤ 1〕

※2 品川清掃工場には、この基準が適用にならないが、目安として示した。

清掃一組の試験焼却結果（排ガス）のまとめ

2つの清掃工場とも、
すべての測定項目で、
女川町の災害廃棄物を
焼却した影響はみられません
でした。

清掃一組の試験焼却結果（飛灰処理汚泥）

■ 〔大田清掃工場〕

		大田清掃工場			〔参考〕 清掃一組 全清掃工場
		法基準値	試験焼却	通常	
放射能濃度 (Bq/kg)	ヨウ素 131	—	不検出	不検出	不検出 ～ 1,050
	セシウム 合計 ※1	8,000	1,537	1,736 ～ 3,660	339 ～ 11,640
ダイオキシン類 (ng-TEQ/g)		3 ※2	1.6	1.1	0.11 ～ 9.5

※1 セシウム134とセシウム137の合計

※2 大田清掃工場には、この基準が適用にならないが、目安として示した。

清掃一組の試験焼却結果（飛灰処理汚泥）

■ 〔品川清掃工場〕

		品川清掃工場			〔参考〕 清掃一組 全清掃工場
		法基準値	試験焼却	通常	
放射能濃度 (Bq/kg)	ヨウ素 131	—	26	不検出	不検出 ～ 1,050
	セシウム 合計 ※	8,000	655	426 ～ 1,275	339 ～ 11,640
ダイオキシン類 (ng-TEQ/g)		3	0.27	0.23	0.11 ～ 9.5

※ セシウム134とセシウム137の合計

清掃一組の試験焼却による確認結果

- 法令や各清掃工場の協定の基準に適合した処理ができました。
- ごみ焼却の状況は、通常運転時と同程度でした。



女川町の災害廃棄物を適正に処理
できることを確認しました。

測定結果について

東京都環境局では、搬出時の
放射能測定等を継続して実施し、
公表していきます。